東園斎主人

瞿麦の実

瞿麦の実と云ふ。

野菜の類にて、夏秋の間、実を結ぶ。

瞿麦の実の図

瞿麦の実の図

明和三年丙戌の夏、今年六十二歳の翁、此の瞿麦の実を図す。

瞿麦の実、西洋の花草の類にて、其の日、其の枝、其の葉、白雪の如く、実の色、白雪の如く、其の実、天竺桂と称す。

草本夏一年生の花なり。秋、実を結ぶ。

其の実、中に細き桂の如く、其の実、中に細き桂の如く、其の実、中に細き桂の如く、

天より降る豆の辨

およそ非常の物の天より降る事は昔も今も稀に有る事ゆゑ其物に就て考られば決して怪むに足らざれども流俗の習ひ諛を好む者は嘉瑞と云ひ罵り痴呆る者は災異と云ふ恐怖し種々の妄説を唱ふる事あり云ふに物學びたる人は苟且の事ゆゑ心を用ひ物を格し理を窮めて惑を糾へしむべくもあらん○今茲慶應元丑年閏五月下旬より六月の初まで天より豆の如き物を降らし事数十度あり或時は風雨に随て降り或時は晴天風雲無くして此物のみ降る事あり始て其物詳らかに或は菩提樹の実ありと云ひ或はギンマメの根に生ずる実ありと云諸説紛々として其実を精く検するふ樟樹の属なる事疑ひ無し尚其證拠を得んと欲せば偶東叡山多宝塔の邊に於てヤマクスの大樹あり夥多の実を結べるを見る其樹下に落ちる者を見るに所々に降る者と少しも異なる事無し是に於て疑念氷解せり此樹は樟の類なり處々自生の者少なからず蓋し其実将に熟せんとするふ方りて颶飄の爲に巻上げられ所々に降ること者なるべし其後晴天ふ降る者ふ至ては事狀頗る疑ふ可し恐くは狡獪の徒の所爲なるべし其樹既に知られず上に実の落る事何を怪むに足らん依て其圖を刻して同社に須つ○附　唐土にも樹実の降る事あり

其物詳らかざるに依て月中の桂実なりんと云ひ傳へ是に月桂の名を命ぜし事本草綱目に見えたり其月桂は即ち天竺桂なり又西洋の記録を按ずるに椽実。白屈菜の実等の降る例少なからず又今より六十二年前イスパニヤ國レオンと云地にて豆の如きものの一度に千二百斤程降る事あり是を食ふに頗る美味なりしと云窮理家の説に是はセンダイハギの類の実なりしぞ

東陽齋主人記

ヤマクス　一名イヌクスヌ　アヲクスとも云

蘭名　アジリカーンセ　ラウリール